保存修復技術の国際的応用に関する研究 〔コ03〕

研究組織　加藤雅人、前川佳文、安倍雅史、牛窪彩絢、ヴァルエリフベルナ（以上、文化遺産国際協力センター）、朽津信明、犬塚将英、中村舞、白石明香（以上、保存科学研究センター）、水谷悦子（保存科学研究センター併任、文化財防災センター）、中山俊介（特任研究員）

目　　的　**文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。本プロジェクトでは国内の専門家及び諸外国の研究機関とネットワークを構築し、壁画をはじめとする不動産文化財を中心に、保存修復技術の最新動向を踏まえた基礎的・基盤的研究を行うことを目的とする。また、得られた成果は文化遺産国際協働の場で応用し、保存修復技術発展への貢献を目指す。**

成　　果

1．共同研究事業確立に向けた事前調査
- トルコ共和国において、壁画を中心とする文化遺産保存修復に係る共同研究の確立に向けた基礎調査を実施した。（現地派遣：2022（令和4）年6月26日～7月10日）
- エジプトのルクソールにおいて、壁画及び考古遺物保存に係る共同研究の確立に向けた事前調査を実施した。（現地派遣：2022（令和4）年12月12日～24日）
- クロアチアのイストラ半島において、教会壁画群の保存状態調査に係る共同研究の確立に向けた事前調査を実施した。（現地派遣：2023（令和5）年3月1日～7日）

2．スタッコ装飾及び塑像に関する研究調査
- 日本国内の複数箇所でスタッコ装飾（主に鏝絵）の保存状態に関する実地調査を行った。
- 新潟県長岡市所在の旧機那サフラン酒本舗においては、鏝絵蔵保存修復計画の立案に係る科学的な分析調査を行うため、彩色や漆喰のサンプルを採取した。（現地派遣：2022（令和4）年11月11日）
- イタリアのフィレンツェにおいて、サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂に保存されているジャンボローニャ制作のスタッコ装飾に係る保存状態調査を実施した。（現地派遣：2023（令和5）年2月19日～20日、3月9日～10日）

3．壁画断片の保存修復方法に関する研究
　様々な要因で剥離・剥落した壁画断片の保存修復方法について、新たな技法の開発を目標にした各種実験研究を行った。

4．地震により被災した文化財の保存修復に係る調査研究
　イタリアのマルケ州において、2016年8月に発生した地震（イタリア中部地震）により被災した文化財の保存修復に係る調査研究を実施した。（現地派遣：2023（令和5）年2月13日～18日）

発　表
- 前川佳文：「明治時代の洋風建築にみられるスタッコ装飾の保存」文化財保存修復学会第44回大会　22.6.19
- 前川佳文、ダニエレ・アンジェロットほか：「ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院の保存修復効果」日本文化財科学会第39回大会　22.9.10-11

刊行物
- 『Research Project on Stucco Decoration and Clay Statues』　23.3
- 『トルコ共和国における事前調査報告 ―文化財保存修復に係る共同研究の確立を目指して―』　23.3